

神奈川支部情報

「人のあかし2014」応援特集号 N02

発行日 2014年4月8日

<発行者> 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

ホームページ: <http://kanagawa.uketugu.org/>

<連絡先> 松山英司 TEL/FAX 046(871)4263

e-mail kan.mat.hid@tbc.t-com.ne.jp

郵便振込口座 00190-2-114578

「人のあかし」公演を応援します

「人のあかし2014」の上演に寄せて

元「中国帰還者連絡会」会員 絵鳩 毅

「人のあかし2014」の上演に当たり、心からの祝福をお贈りいたします。私も、劇の主人公同様、中国への侵略戦争に参加して、「殺し、焼き、奪う」の嚴重な罪を犯したため、戦犯として「撫順戦犯管理所」に6年間拘禁されました。ここで私達は、「敵をも人間として愛する」という、正に奇跡的待遇により、過去を反省して、「侵略軍隊の尖兵」から「平和の擁護者」へと、180度の奇跡的な転変を成し遂げました。誠に感謝に堪えません。



だがこれに反して日本政府は、今「平和憲法」を改悪して、国民を再び戦争の泥沼に追いやろうと企んでいます。彼らは「国際貢献」などの美辞を掲げていますが、それはアメリカの戦争に加担することです。これを許すなら日本の前途はありません。

この時に当たり、日本国民は、過去の侵略戦争の実態を認識し、再び戦争を許さない活動に決起すべきではないでしょうか。そのために「人のあかし2014」の上演は、正に意義深く、一人でも多くの国民により観劇され、明るい日本を築く力となつてほしいと念願し、私の祝辞と致します。

(2014年4月8日)

前回の「人のあかし」公演は大成功でした。2012年11月30日から、撫順戦犯管理所を舞台にし、土屋芳雄さんをモデルとした芝居が、京浜協同劇団（川崎）で10回にわたって公演され、毎回満席でした。合計900人余の人が観劇しました。撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部は脚本を書く段階から相談を受けていまして、当然のこととして全面的にバックアップし、協力してきました。

観劇後の皆さんの感想文には「感動」「感激」「感謝」の文字が躍っていました。劇団員の熱演に触発されて、目を真っ赤にして出てこられた人もおられました。自らの体験に基づく

侵略戦争の実体を証言してきた、中帰連の方たちが示した歴史の真実が大きく広がりました。

これまで、撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部が開催した「神奈川証言集会」は20回を超え、中帰連の方々の撫順戦犯管理所、および太原戦犯管理所での体験をキーワードに、中国国民への残虐な加害の体験について証言をしていただきました。集会参加者はのべ2000名を超え、中国侵略戦争の実体を中帰連の方々からの証言を聞いていただきました。そのほか、中帰連の方々を多くの平和団体の集会にお連れして証言を聞いていただいたことをふくめます3000人をこえる人たちに中帰連の方々の伝える真実が広がったともいえます。

今回開催される「人のあかし2014」は、すでに評判が評判を呼び、予約で満席が相次いでいると聞いています。これまでの私たちの証言集会と、「人のあかし」公演の相乗効果がさらに相乗効果と呼び、撫順戦犯管理所での真実が一気に大きく広がっていく実感を覚えます。



本当にうれしいことです。

昨年暮れの靖国参拝から秘密保護法強行採決、武器輸出三原則撤廃、集団的自衛権拡大解釈による実質的な憲法改悪、などなど安倍政権はやみくもに戦争体制構築を急いでいます。歴史の真実から安倍政権の本質を見抜き、洞察する目を鍛えることが、安倍政権の悪性を阻止していく大きな力となることでしょう。

今年は、戦後69年を迎えます。中帰連の方々が帰国して58年が経過して、中帰連の方々の高齢化には勝てず、私たちの周りで大勢の皆さんの前で証言できる方はおられなくなりました。

ゆいいつ、と聞いていいと思いますが絵嶋 毅さんが、今年3月16日に101歳の誕生日を迎えられてお元気に活躍されています。絵嶋さんは現在、茅ヶ崎市内の老人施設に奥様とご一緒にお元気に過ごされています。

先日、101歳の誕生日祝いに訪問してきました。最初の部分のメッセージはその時にお願したもので、すぐに送っていただきました。

最近の絵嶋さんの生活は、午前中は相変わらずパソコンに向かって、まずはその日その日の日記を書くことから始まります。目も耳も年齢相応にお疲れで新聞、テレビは判読が困難なようです。それでもパソコンを開けば、これまで書いた自叙伝と中帰連活動の記録を見ることができます。

ご自分のたどってきた足跡なのですぐに記憶がよみがえり、判読ができるのだとおっしゃっていました。そして、自分の若いときの文書を見ればその年代に若返り、たいへん楽しく、人生を2度体験しているようで「僕はたいへん得している」とおっしゃっていました。

絵嶋さんの書かれた自叙伝は膨大なものです。そのうちの一部は「大正から昭和へ」と題して自主出版されたのです。部数も少なくいまは中帰連平和記念館（別紙参照）に1セットを残すのみとなりました。そのほか、絵嶋さんの膨大な自叙伝から第1作「撫順戦犯管理所の6年」、第2作「シベリア抑留の5年」、第3作「皇軍兵士の4年」の3部作の小冊子を発刊しました。別紙の案内を参照してください。（各冊A4、70ページ前後・一冊400円）